



ktunes
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,8 MOTEGI 250Km GT Report 2018/11/11

Final Day Summary

K-tunes Racing LM corsaの最終戦は12番手グリッドからスタート直後に5番手まで浮上第2スティントも粘りの走りをみせ、10位でフィニッシュ
参戦初年度ながらドライバーズランキング6位で2018シーズンを締めくくった

Final Day <気温19℃、路面温度29℃>

AUTOBACS SUPER GT シリーズ最終戦となる「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」の決勝レースが11月11日（日）に栃木県にあるツインリンクもてぎで開催された。ウエイトハンデの課されない最終戦は予選からも熾烈な闘いとなり、10日（土）に行なわれた予選では、K-tunes RC F GT3 に乗る中山雄一選手が公式練習を上回る1分47秒429のタイムをマークして予選Q1を突破。続く新田守男選手も予選Q2で1分47秒319を記録し、決勝レースは12番グリッドからのスタートが決定した。ドライバーズランキングでは5位につけており、僅かではあるがチャンピオンの可能性を残し決勝に挑むこととなった。

11日の決勝日は、秋晴れの快晴のもと11時55分からのウォームアップ走行からスタートした。全8週の走行のうち7周を中山選手がステアリングを握り、最終周に新田選手にバトンタッチ。セットアップの最終確認を行なった。

スタート時のコースコンディションは気温19℃、路面温度29℃で、この時期としてはやや高め気温となった。3万7000人の観客が見守る中、53週の決勝レースは13時35分のパレードラップからスタート。

まずは、GT500を含む全44台のマシンが地元栃木県警の5台の白バイとGT-R、NSXのパトカーに先導される。先導した警察車両がピットに戻るといよいよフォーメーションラップが始まり2018年シーズンを締めくくる250kmレースの火ぶたが切られた。

K-tunes RC F GT3のファーストドライバーは中山選手。スタート早々「狙っていたラインに前走車がいなかった」ということで12番手から8番手まで一気にポジションを上げた。さらに翌2周目には7番手へと浮上。

Final Day

タイトル獲得の可能性が高まる中、1分50秒台のペースで果敢に前走車に食らいついていく。しかしパッシングポイントが少なくツインリンクもてぎのコース特性ゆえ、なかなか順位を上げられない状態が続いた。ライバル勢との膠着した関係に動きが見られたのが18周目。上位車両にトラブルが発生したことで順位に変動があり19周目には5番手にポジションを上げることができた。しかし同時にタイヤのグリップ低下も発生しはじめ1分51秒台へとラップタイムが落ち始める。21周目に中山選手がピットインし、タイヤ交換と同時に新田選手にドライバーチェンジを行なう。

上位車両の何台かがタイヤ無交換作戦を選択したためもあり、ドライバー交代後は17番手でコースに復帰。しかし、新田選手の気迫の走りで25周目にはベストとなる1分49秒483を記録。その後も1台ずつ着実に前走車をパスして行き、26周目には16番手に、28周目には14番手、翌29周目には12番手、さらに30周目には11番手へと順位を上げ、32周目にはついにポイント圏内の10番手に浮上する。

その後は1分50秒から51秒台のペースで前走車を追うもレース中盤を過ぎコース上に増えてきたタイヤカスに邪魔され思うようにギャップを詰められない。ただ順位こそ変動はなかったものの、後続車に30秒以上の大きな差をつけ、47周目に10位でチェッカーを受けた。

K-tunes Racing LM corsa は、参戦初年度ながら8戦で2勝を挙げ、3度の入賞を獲得した。この結果によってSUPER GT 2018年シーズンは、ドライバーズランキング6位、チームランキング6位で終わることになった。来シーズンはさらにチーム力を引き上げて、常に上位で争える体制を整えていく。



Team Comment



Director : 影山 正彦

予選 Q2 通過後のタイヤの抽選の結果、ソフトコンパウンドのタイヤで決勝レースをスタートすることになりました。燃料をぎりぎりの量に抑えマシンは軽くしていたのですが、中山選手のスティントでは思うようにペースが上がらなかったようです。一方で新田選手のスティントはベテランらしい粘り強い走りで、しっかりと入賞圏内をキープしてくれました。浮き沈みの激しいシーズンでしたが、今後の課題も見えてきたので、ファンやスポンサー様の期待に応えられるよう一丸となって取り組みたいと思います。一年間、応援頂きありがとうございました。



Driver : 新田 守男

タレの少ないミディアムタイヤに交換しての走行でした。走りは非常に安定していたのですがコース上に増えてきたタイヤカスの影響で思い切って攻めることができず、タイヤ無交換作戦のチームに一矢報いることができなかったのが残念です。新しいチームとして始まって1年、ファンの皆さんからの熱い応援によりシーズン2勝を挙げることができました。タイトル争いができるチームに並ぶことができるよう、課題を解決していきながら来年に備えたいと思います。



Driver : 中山 雄一

12番グリッドからのスタートでしたが、レース序盤に7番手になることができました。5番手まで順位を上げて、第2スティントを担当した新田選手に託すことができましたが、もう少しペースを上げられればもっと上位を狙えたと思います。ピットインの時点でトップとの差は15秒差だったのですが、結果として引き離されて10番手になってしまいました。シリーズを振り返ると取れるはずだったポイントを落としてしまったレースもあったので、課題は色々あります。それでもチーム、ドライバーともに持てる力を出し切って、良いシーズンになったと感じています。1年間の応援ありがとうございました。

2018年スーパーGT シーズンリザルト

ドライバーズランキング:6位・チームランキング:6位